

第 389 回研究報告会 (2026 年 7 月 27 日)

「教師に不満を持つ保護者との会話の運び方」

金山 佐喜子 (天理大学人文学部准教授)

2007 年に「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、特別な支援を必要とする幼児、児童、生徒の支援をさらに充実させていくこととなった。特別支援教育においては、幼児、児童、生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、複数の関係者がチームとして対応していくことが求められる。そして、そのチームには、教師や心理職等の職業的援助者だけでなく、子どもの保護者も含まれる。なぜなら、保護者は「子どもをよく知る専門家」であり、その意味でチームのパートナーでもあるからである。よって、教師と保護者には協働の関係が期待されるが、実際には両者が常に良好な関係にあるとは限らない。とりわけ、特別支援教育をめぐる現状においては、教師に不満を持ち、教師が変わることを望む保護者は少なくない。報告会では、この点に関する実践的討議を行った。

新連載執筆のねらい

「おさしづ」にみる教会の展開

澤井 治郎 (天理大学人文学部准教授)

以前に『グローカル天理』誌上で、「おさしづ語句の探求」という連載を書いたときには「道」という言葉に注目して、「おさしづ」のなかで「道」はどのように説かれてきたのかを明らかにしようとした。そうした視点で「おさしづ」を読み進めるなかで感じていたのは、天理教のなかに教会が多く発展していったということは、「道」と呼びならわされてきたこの信仰伝統にどのような影響をもたらしたのだろうか、結局のところ、天理教にとって教会とはどういう場所なのかという疑問であった。

そこで本連載では、一般教会に関する「おさしづ」の割書に注目して、当時の信仰者たちが教会に関して何を願い、何を伺っているかを読み解くことによって、かれらが教会をどのように捉え、天理教の教会のあり方をどのように作りあげてきたのかを考察することにした。

2026 年度おやさと研究所 公開教学講座 「布教伝道と伝道学」

第 1 回	4 月 25 日 (土)	伝道学入門—丸川仁夫『伝道学概論』から考える	堀内みどり 主任 (終了)
第 2 回	5 月 25 日 (月)	異文化伝道論 1—イスラームの宣教活動に学ぶ	澤井 真 研究員 (終了)
第 3 回	6 月 25 日 (木)	異文化伝道論 2—コンゴでの伝道とその課題	森 洋明 研究員 (終了)
第 4 回	7 月 25 日 (土)	異文化伝道論 3—ブラジルから日本へ：在日ブラジル人の布教	中西光一 研究員 (終了)
第 5 回	9 月 25 日 (金)	伝道史の探究 1—明治時代における教会設置	澤井治郎 研究員
第 6 回	10 月 25 日 (日)	伝道史の探究 2—戦前・戦中の北米伝道	尾上貴行 研究員
第 7 回	11 月 25 日 (水)	伝道史の探究 3—『天理教伝道者に関する調査』を読む	岡田正彦 研究員
第 8 回	12 月 25 日 (金)	伝道学の展開 1—天理大学史の中の「宗教学科」	島田勝巳 研究員
第 9 回	1 月 25 日 (月)	伝道学の展開 2—時代の動きと道の「時句」	金子 昭 研究員
第 10 回	2 月 25 日 (木)	伝道学の展開 3—帝国時代とポスト帝国時代の海外布教戦略	井上昭洋 所長

日時：毎月 25 日 13:00 ~ 15:00

会場：天理大学研究棟 3 階 第 1 会議室

※但し、第 10 回 (2 月) はふるさと会館大ホール (九号棟)

事前申し込みは不要です。
直接会場にお越しください。

グローカル天理

第 27 巻 第 9 号 (通巻 321 号)

2026 年 (令和 8 年) 9 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所 (HP)



印刷 天理時報社

Printed in Japan